

2.4. 治山計画における危険度判定技術

1. 試験担当者

北海道支場 経営部治山研究室長 遠藤泰造 ほか

2. 試験目的

道内国有林の治山事業の効果的投資を計るために地形、地質、降雨量の分布、過去および現在の荒廃情況、林況、気象などの諸要因と山地荒廃との量的関係を統計的に解析し、治山計画のさいの流域別の優先度判定の方法を確立する。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

1. 山崩れの発生誘因のなかで、もっとも作用度の強い雨量因子と山崩れの発生との関係を量的な面から考察した。その結果、a) 山崩れを起す雨量の分布は平方根正規型の分布をする。b) 山崩れ、かけ崩れ、土砂崩れの発生件数の95%は、日雨量が20mm以上の時に起きている。c) 山崩れなどの発生は、そのほとんどが雨の日かまたはその直後に起きている。などを確認できた。
2. 山崩れの1つの因子である土壤の深さについて、その分布を検討した。

4. 昭和45年度の試験計画

1. 岐阜の資料を用いて、危険度判定技術の方法について検討する。
2. 道内各局の治山計画の実態調査を行ない、現行の予防保全の計画を把握する。